

# 令和6年度 輪之内町立輪之内中学校の教育

学校の教育目標 **ひとりだちのできる生徒**  
～自ら考え、よりよく判断して主体的に行動する生徒～  
《校訓》 **開拓精神**

◇願う学校像 「今日も楽しかった。また明日も来たい！」と思える学校  
願う生徒像 「さわやかさ」と「活力」に満ちた輪中生

## 町の方針

- ◆自ら考え、自ら決め、主体的に行動し、振り返り、結果に責任をもつ力の育成
- ◆話し合っ、納得解を見付け、新たな価値を創造する力の育成
- ◆学んだことを生かして社会に貢献する力の育成

## ◇学校課題

- ①自己肯定感の醸成と人権感覚の高揚
- ②考えを表現し、話し合いで合意形成できる力
- ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ④教職員の温かさと厳しさ、導くと委ねるのバランス
- ⑤教職員と地域をつなぐ学校運営協議会の運営

## 令和6年度Mission

### ★認められている安心感（生活指導部会）

- 約束の徹底と共通理解のもとで、安心して生活できる環境を築く
- 生徒一人一人に寄り添い、生徒が心を開いて相談できる関係をつくる

生ア「学校に行くことが楽しい」 90% 生ア「学級は安心して生活ができる」 90%  
生ア「困ったときに先生に相談する」 80%

### ★学び合っている充実感（学習指導部会）

- 課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる
- 交流の場やまとめの中で、仲間の意見や学びの姿を認め合うことができる
- 仲間や先生の話最後まで聞き、自分の考えを深めたり広めたりしたことを、仲間に伝えることができる

生ア「授業では自分で考え取り組んでいる」 85% 生ア「仲間のよさを見つけ認めている」 90%  
生ア「仲間の話を聴き、自分の考えを深めている」 90%

### ★成長できた達成感（特活指導部会）

- 自ら問題を見つけ、話し合いを通して仲間とともに問題を解決したり、よりよい生き方を考えたりすることができる
- 自発的・自治的に学校生活の充実や改善を図る活動を考え、実行する実践力を育てる
- 学校行事を通して、仲間と関わり達成感を味わえるよう工夫する

生ア「話し合いをもとに努力することを決め取り組む」 88% 生ア「行事を通して達成感・成就感を味わった」 95%  
生ア「生徒会活動を通して成長できた」 94% 生ア「自ら立てた目標に向かって取り組んだ」 85%  
職ア「自ら立てた目標に向かって取り組む指導ができた」 70%

## 教職員の指導姿勢

- 1 学級・学年の仲間づくりを日常生活の基盤として行い、「注意できる関係性」を育てる
- 2 基礎・基本の確実な定着を図る丁寧な指導と教師の授業改善で「学ぶ意欲」を高める
- 3 生徒が行う「価値ある活動」を精一杯支援し、「やりぬく強さ」を培う

## 基盤となる学校の構え

- 人権感覚を磨き、偏見や差別を許さず、自分らしさを認め合う学校風土づくり
  - ・思いやりに欠ける言動がない、温かい言葉にあふれ互いのよさを認め合う指導をする
- 常に危機意識をもち、全教職員による生徒指導体制の充実に努める
  - ・安定に甘えず、違和感を共有し、「さしすせそ」の基本姿勢で指導しきる
  - ・「いのちの教育」を推進し、SOSの出し方などを通し、かけがえのない命であることを伝え続ける
- どうすることが最善かを生徒とともに考え、その一人のために動ける教師
  - ・調査や相談の機会を生かし、常に生徒に寄り添う姿勢をもち、その生徒にとってのベストを考える
  - ・教育相談担当を中心に、SC・S相・心の相談員と連携し、組織的・継続的な指導を行う
- そこに「教育の原点がある」との認識をもち、特別支援教育の充実に努める
  - ・個別の支援計画を活用し、個別のニーズを有する生徒の指導について学校全体で取り組む体制を充実
- 学校運営協議会を核として、学校と地域が連携し教育活動の充実に努める
  - ・学校運営協議会と教職員が課題と方途を共有し、よりよい教育活動づくりに連携する
- 教職員自らのキャリアデザインを描き、適性な勤務に努めながら資質の向上を図る
  - ・仕事に軽重をつけ、働き方のセルフマネジメントができる
- PDCAサイクルによる学校運営改善、信頼される学校づくり
  - ・6ステージ制を通して、時期による目的を明確にし、学年の実態に応じスモールステップで働きかける
  - ・従前や慣習にとらわれず、根拠をもって変更し、恐れず実行する